

基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	医療と社会		担当教員	笠井 正晴	
開講時期	1年次前期		総時限数	16時限	授業形態	講義	単位数 2単位

■ 科目内容

北海道鍼灸専門学校の建学、教育理念と沿革を理解し、鍼灸師の役割を考える。
 自然科学の歴史と医学の歴史を理解し、西洋と東洋の医学の流れを理解する。
 中国における東洋医学と日本鍼灸医療の歩みを知り、統合医療の考えを知る。
 医の生命倫理と死生観を考え、民族と宗教についても考察する。
 医療安全の考えを学び、実践できる。
 医療面接と診察法について学ぶ。
 日本と世界の医療制度と社会保障を知る。
 最近の医療の進歩を理解する。

■ 到達目標

本校の教育理念、沿革を理解し説明できる。
 鍼灸医療の医療全体における位置づけを説明できる。
 生命倫理について自分の考えを述べることができる。
 日本の医療制度と社会保障について長所、短所を述べることができる。
 患者の権利を尊重し、人間性を陶冶し礼節を持った医療人へ成長する。

■ 授業方法・教材

様々な資料を基に教員の作成した教材を用いる。
 講義、討論形式
 グループ討論で他の生徒の考えを理解する。

■ 学習方法

資料、講義内容を理解し、授業でのテーマを通して医療人として対応の仕方を考え、述べられるようにする。

■ 成績評価

期末試験で評価する。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			本校の教育理念と地域医療に果たす役割
2			鍼灸師と医療界を構成する他職種の構成と役割
3			自然科学としての医療の歴史（1）
4			自然科学としての医療の歴史（2）
5			日本における鍼灸の歩みと統合医療（1）
6			日本における鍼灸の歩みと統合医療（2）/ 海外で活躍する卒業生
7			医の生命倫理
8			医と死生観 / 脱法ハーブの危険性
9			医療安全（1）
10			医療安全（2）/ 血圧測定法の実際
11			医療面接と診察法
12			東洋医学と西洋医学の診断治療アプローチ / 聴診器の使用法の実践
13			医療と社会保障制度（1）
14			医療と社会保障制度（2）
15			最新の医療
16			北方領土とロシアそして大シベリア紀行

基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	自然科学		担当教員	小林 貴法	
開講時期	1年次前期		総時限数	16時限	授業形態	講義	単位数 2単位

■ 科目内容

近年、鍼灸師はスポーツ分野でトレーナーとして、介護分野では機能訓練指導員として活動の場を広げている。それに伴い鍼灸師への社会的なニーズが高まっている。これからは伝統を生かして幅広く活躍できる鍼灸師が社会から求められている。その期待に応えるにはある程度の科学知識を備える必要がある。その基本的な科学知識のうち、本講座では化学の基礎知識、生化学の基礎知識、細胞の働きに関する基礎知識など、鍼灸師が必要とする最低限の科学知識を扱う。

■ 到達目標

- 人体においてみられる化学物質を知り、その役割を理解する。
- 人体における代表的な生化学の化学反応、特に代謝について理解する。
- 細胞に共通した構造と活動、遺伝の基本的な事項を理解する。
- 細胞間の情報伝達および細胞内の情報伝達について基本的な事項を理解する。

■ 授業方法・教材

講義と演習により行う。教科書および配布物を教材として使用する。講義においてディスカッションする時間をとるため、積極的に授業に参加してほしい。また全員参加型で授業を進めたいので、随時質問を受けながら授業を進行する。

■ 学習方法

教科書および配布物を中心に学習すること。予習の必要はないが、復習するポイントを授業中に伝えるので、そのポイントを中心に学習すること。また習得期限を明言するので、その期限までに習得するよう努力すること。カリキュラム全体における本講義の位置づけから習得期限を設定するので、確実に学習するよう各自の努力が必要である。自己の努力で困難な場合は担当教員に直接相談すること。

■ 評価基準

学期末試験の成績により評価する。60点以上を合格とする。

■ 連絡事項

担当教員は学生の皆様が国家試験に合格することを手助けしていることを理解してください。そして、国家試験合格は最低限必要なことで、皆さんが医療従事者として働くときに必要な知識を授業で伝えていくので、そのことも理解してください。学生の皆様の最大の武器となるよう働きたいと考えています。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			オリエンテーション（ヒトの身体の全体的な構造、大きさの単位など）
2			ヒトの身体で重要な働きをする物質
3			自然現象による物質の輸送
4			生命活動としての物質の輸送
5			三大栄養素～糖質
6			三大栄養素～タンパク質
7			三大栄養素～脂質
8			細胞の一般的な構造
9			有糸分裂と減数分裂
10			RNA と DNA
11			タンパク合成
12			遺伝
13			ホメオスタシス
14			ホルモン
15			細胞内情報伝達系
16			情報伝達系と細胞の働き

基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	心理学 (こころの科学)		担当教員	笠井 正晴	
			総時限数	15 時限		講義	単位数
開講時期	1 年次前期						

■ 科目内容

心理学とは、人間のこころの機能や行動を科学的に解明する学問であり、「こころ・からだ・文化」の側面から人間を総合的に理解するために欠くことのできない領域である。本科目では、心理学の基本的な知識を理解することを目的とする。具体的には、心理学の基本的な概念や理論を学び、心理学的視点から人間を理解する能力を身に着ける。コミュニケーションの基礎となる心理学を理解できる。また人間の社会生活との接点から、心理学についての理解を深め、人々が心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に心理学を応用する方法について学ぶ。さらに、「自立と共生」、「創造性と人間性」を基礎に、日常及び医療現場で役立つコミュニケーション力を養う。

■ 到達目標

1. 心理学を科学の一分野として説明できる。
2. よりよいコミュニケーションについて、心理学に基づいて説明することができる。
3. よりよいコミュニケーションの基盤として、こころ、からだ、文化の側面から人間を総合的に理解することができる。
4. 自分及び他者とのよりよいコミュニケーションのために、心理学を応用する方法を説明することができる。
5. 人々が心身共に豊かに暮らせる社会の構築に心理学を応用する方法を説明することができる。

■ 授業方法・教材

渋谷昌三著：面白いほどよくわかる心理学の本、西東社

■ 成績評価

- ・科目修了試験で評価する。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			心理学って何? : 社会現象や生涯発達と心理学の接点を学ぶ。心理学内の専門領域に触れ、心理学の概要を学ぶ。
2			
3			人づき合いの心理学 : 諸理論や各種実験の結果を通じて、人間関係、他者関係、印象に関する心理学を学び、コミュニケーション能力について考える。
4			
5			心理学者で読む心理学 : 精神分析学を中心に歴史的に重要な心理学の理論と研究者について学ぶ。
6			
7			人間の成長で見る心理学 : 発達段階に沿って、関連する心理学を学ぶ。
8			
9			組織の中の人間行動 : 集団の力動、リーダーシップ、組織マネジメント、交渉・説得に関する心理学を学ぶ。
10			
11			元気をなくしたときの心理学 : ストレスがこころとからだに与える影響や、こころの病とその治療法を学ぶ。
12			
13			心を生み出す脳システム : 脳との関連でこころの働きについて学ぶ
14			
15			性格と深層心理の分析 : 遺伝と環境の影響、類型論、自尊感情、無意識の働きの観点から性格に関する心理学について学ぶ。

基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	社会科学（養生論）		担当教員	笠井 正晴	
開講時期	1年次前期		総時限数	15時限	授業形態	講義	単位数 2単位

■ 科目内容

人間が人間らしく豊かに生きるためには、人生を楽しむ健康であることが大切である。日本では約300年前、『養生訓』という書物が出版された。ここには人生（老い）を健康で楽しく過ごす、という思想が息づいている。そこで、この科目では貝原益軒の『養生訓』を題材として取り上げ、心身相関に基づいた「養生」という思想を学び、現代における健康観や人生観、食生活、医薬との関わり方などについて考えていく。そして過去の知恵を現代に生かし、自分の問題として捉えて実践し、少子高齢社会をいかに快適に生きることができるかを考えることを目的とする。具体的には、心身相関に基づいた「養生」という思想を学び、現代における健康観や人生観、食生活、医薬との関わり方などについて具体的・実践的方法論を交えながら自分の考えを述べることができるようにする。

■ 到達目標

心身相関に基づいた「養生」という思想を学び、現代における健康観や人生観、食生活、医薬との関わり方などについて具体的、実践的方法論を交えながら自分の考えを述べるができる。

■ 授業方法・教材

久住武著：現代の養生訓、人間総合科学大学

■ 成績評価

科目修了試験で評価する。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			1～8回 「心身相関」をベースに持つ養生の持つ意味を概観しながら、東洋の健康観、倫理観を学ぶ。また、それが生み出された思想的背景や時代的背景、江戸時代を中心とした日本の医療文化、当時の庶民の生活と疾病観・死生観についても概観し、なぜ今「養生」が必要なのかを考えていく。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			9～15回 貝原益軒の「養生訓」の思想を現代社会に生きる私達に応用し、人生をよりよく生きるための具体的・実践的方法論をみていく。食生活をはじめとする生活習慣のあり方、医薬との関わり方、高齢者の「こころ」と「からだ」の健康について考えていく。
10			
11			
12			
13			
14			
15			

基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	外国語（医学英語）		担当教員	前期：笠井 正晴 後期：ティモシイ グロース	
開講時期	1年次通年	総時限数	16時限	授業形態	講義	単位数	2単位

■ 科目内容

- ・基礎医学の英語表現を学ぶ。
- ・日常生活における鍼灸関連英語の理解と説明ができる。
- ・実地医療で使われる英語表現を学ぶ。
- ・Native speakerの話す日常英会話の表現を理解し、応対ができる
- ・外国人と実際の簡単なコミュニケーションを英会話でできる。

■ 到達目標

- ・基本的な英語力をスキルアップする。
- ・英語を介し東洋医学や中国医学について説明できる。
- ・身体、臓器の英語表現ができる。
- ・代表的な病名を英語表現できる。
- ・医療面接の際の英語表現を説明できる。

■ 授業方法・教材

- ・対面授業、時にweb授業で双方向性に学ぶ。
- ・授業教材、補助教材は担当教員が作成したものをを用いる。

■ 学習方法

- ・教材を理解し 英語表現、説明の仕方を学ぶ。
- ・医療面接、問診、身体所見の取り方を英語で学ぶ。

■ 成績評価

- ・期末試験、授業態度により評価する。 成績評価は学則に準じる。

■ 連絡事項

- ・授業回数が少ないため、遅刻、欠席に留意すること。

■ 授業計画

回	月 / 日	出欠	項 目
1,2			Understanding of medical terminology/John Manjiro world
3,4			Anatomy and organ function / Acupuncture in Nepal
5,6			Knowledge of biochemical data required for acupuncturists
7,8			Health care and Nutrition
9			Introductions. Parts of the body (basic) Giving instructions
10			Basic English skills (1) Daily life - listening and speaking Instructions - listening and responding
11			General health topics Basic English skills - health interviews (1) Adverbs of frequency
12			Review Lifestyles - questions and answers. The muscular system (1) Health interviews (2)
13			Review Examining a patient (1) - giving instructions. Basic English skills - present tenses Present tense-descriptive skills
14			The muscular systems (2) Examining a patient (2) - role plays Common medical instructions (2) - speaking Basic English skills - making and completing a questionnaire.
15			Basic English skills - past tense narratives. Past tense-descriptive skills History of acupuncture - reading and speaking. Describing symptoms.
16			Review Large numbers in English The muscular system (3) Basic English skills - making questions.

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	解剖学 I		担当教員	工藤 匡	
開講時期	1 年次前期		総時限数	38 時限	授業形態	講義	単位数 5 単位

■ 科目内容

解剖学 I では、人体を構成している細胞・組織および運動器系に関する基本的な構造や機能について学習する。

■ 到達目標

鍼灸臨床で必要とされる解剖学の知識レベルに到達する。

1. 細胞・組織の構造、機能、分類について説明できる。
2. 骨の名称、部位名について説明できる。
3. 筋の名称、起始部、停止部、支配神経、作用について説明できる。
4. 神経や血管が通る特徴的な部位の局所解剖について説明できる。

■ 授業方法・教材

教科書：「解剖学（第2版）」（公社）東洋療法学校協会 編 医歯薬出版（株）

1. 第1章 人体の構成 第10章 運動器系について講義する。
2. 教科書のほかに参考プリントを確認し、必要に応じて板書やPCスライドによる解説を行う。
3. 身体を動かしたり、触れたりすることを通じて、運動や体表解剖について理解を深める。

■ 学習方法

1. 基本的には授業計画の内容に基づいて講義を行うので、該当範囲について予習をした上で授業に出席する。
2. 専門的な用語やイメージを定着できるように、授業後の復習を大切にし、文字の手書きやイメージの図示といったアウトプット学習を積極的に取り入れる。
3. 授業内で行う小テストで、アウトプット学習の成果を確認する。
4. 解剖学と生理学の教科書を読み比べ、形態と機能を一元的に把握できるように工夫する。

■ 評価基準

中間試験、期末試験の成績で評価する。

※解剖学 I は前期で終了する科目であるため、後期に行う解剖学 II と通算しての成績評価とはならないので、試験結果や欠席回数に留意すること。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			オリエンテーション（解剖学の学習方法） 第1章 人体の区分と方向
2			第1章 細胞①
3			第1章 細胞②
4			第1章 組織①（上皮組織・結合組織）
5			第1章 組織②（筋組織・神経組織）
6			第1章 体表構造（皮膚）
7			第10章 上肢帯の骨（鎖骨・肩甲骨）
8			第10章 自由上肢の骨（上腕骨・橈骨・尺骨・手の骨）
9			第10章 上肢の関節①（胸鎖関節・肩鎖関節・肩関節）
10			第10章 上肢の関節②（肘関節・橈骨手根関節・手の関節）
11			第10章 下肢帯の骨（寛骨・骨盤）
12			第10章 自由下肢の骨①（大腿骨・膝蓋骨）
13			第10章 自由下肢の骨②（脛骨・腓骨・足の骨）
14			第10章 下肢の関節①（股関節・膝関節）
15			第10章 下肢の関節②（足の関節）
16			第10章 脊柱の構成
17			第10章 胸郭の構成
18			第10章 頭蓋骨①
19			第10章 頭蓋骨②
20			第10章 上肢帯の筋
21			第10章 上腕の筋
22			第10章 前腕の筋①（屈筋群）
23			第10章 前腕の筋②（伸筋群）
24			第10章 手の筋 局所解剖（手根管・ギヨン管）
25			第10章 下肢帯の筋
26			第10章 大腿の筋
27			第10章 下腿の筋
28			第10章 足の筋

29			第10章 局所解剖（筋裂孔と血管裂孔・大腿三角）
30			第10章 局所解剖（膝窩・足根管）
31			第10章 体幹の筋①（胸筋・腹筋）
32			第10章 体幹の筋②（背筋）
33			第10章 頭部の筋（表情筋・咀嚼筋）
34			第10章 頸部・項部の筋
35			第10章 局所解剖（頭頸部）
36			第10章 局所解剖（体幹部）
37			第10章 局所解剖（上肢）
38			第10章 局所解剖（下肢）

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	解剖学Ⅱ		担当教員	工藤 匡	
開講時期	1年次後期		総時限数	38時限	授業形態	講義	単位数 5単位

■ 科目内容

解剖学Ⅱでは、人体を構成している循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系に関する基本的な構造や機能について学習する。

■ 到達目標

鍼灸臨床で必要とされる解剖学の知識レベルに到達する。

1. 代表的な血管・リンパ管の構造、機能について説明できる。
2. 代表的な中枢神経系、末梢神経系の構造、機能について説明できる。
3. その他、内臓諸器官の構造、機能について説明できる。

■ 授業方法・教材

教科書：「解剖学（第2版）」（公社）東洋療法学校協会 編 医歯薬出版（株）

1. 第2章 循環器系、第3章 呼吸器系、第4章 消化器系、第5章 泌尿器系、第6章 生殖器系、第7章 内分泌系、第8章 神経系、第9章 感覚器系について講義する。
2. 教科書のほかに参考プリントを確認し、必要に応じて板書やPCスライドによる解説を行う。
3. 身体を動かしたり、触れたりすることを通じて、運動や体表解剖について理解を深める。

■ 学習方法

1. 基本的には授業計画の内容に基づいて講義を行うので、該当範囲について予習をした上で授業に出席する。
2. 専門的な用語やイメージを定着できるように、授業後の復習を大切にし、文字の手書きやイメージの図示といったアウトプット学習を積極的に取り入れる。
3. 授業内で行う小テストで、アウトプット学習の成果を確認する。
4. 解剖学と生理学の教科書を読み比べ、形態と機能を一元的に把握できるように工夫する。

■ 評価基準

中間試験、期末試験の成績で評価する。

※解剖学Ⅱは後期だけの科目であるため、前期に行った解剖学Ⅰと通算しての成績評価とはならないので、試験結果や欠席回数に留意すること。

■ 授業計画

回	月 / 日	出欠	項 目
1			第2章 血管系の基礎 心臓①
2			第2章 心臓②
3			第2章 動脈系① (大動脈とその分枝)
4			第2章 動脈系② (頭頸部)
5			第2章 静脈系① (肺循環・体循環の静脈)
6			第2章 静脈系② (門脈)
7			第2章 リンパ系
8			第2章 胎児循環
9			第3章 鼻腔・副鼻腔
10			第3章 喉頭・気管・気管支
11			第3章 肺・胸膜
12			第3章 縦隔
13			第4章 口腔・咽頭
14			第4章 食道・胃
15			第4章 小腸
16			第4章 大腸
17			第4章 肝臓・胆嚢
18			第4章 膵臓・腹膜
19			第5章 腎臓①
20			第5章 腎臓②
21			第5章 尿管・膀胱
22			第5章 尿道
23			第6章 男性生殖器
24			第6章 女性生殖器
25			第7章 内分泌系①
26			第7章 内分泌系②
27			第8章 中枢神経系① (脊髄・伝導路)
28			第8章 中枢神経系② (脳幹・間脳)

29			第8章 中枢神経系③ (大脳・小脳)
30			第8章 中枢神経系④ (脳室・脳脊髄液)
31			第8章 末梢神経系① (脳神経)
32			第8章 末梢神経系② (脳神経)
33			第8章 自律神経系① (交感神経)
34			第8章 自律神経系② (副交感神経)
35			第9章 視覚器①
36			第9章 視覚器②
37			第9章 聴覚器①
38			第9章 聴覚器②

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	生理学 I		担当教員	二本松 明	
開講時期	1 年次前期		総時限数	38 時限	授業形態	講義	単位数 5 単位

■ 科目内容

生理学は正常状態での生体の機能について学ぶ学問である。生理学 I では、多様な人体の機能のうち、細胞、神経系（末梢神経系、中枢神経系）の機能、自律神経系の機能、血液の機能、心臓や血管の機能について学習する。

■ 到達目標

神経系の分類、ニューロン、シナプスなど神経系特有の構造とその働き、中枢神経系（脊髄、脳幹、間脳、大脳、小脳）の機能の特徴、自律神経系の機能の特徴、骨格筋の構造や働き、並びに神経系による運動調節の仕組みの理解。

鍼灸師に必要な生理学の知識レベルに到達する。

1. 細胞の機能（細胞内小器官の機能を含む）を理解し、説明できる。
2. 神経系の分類、ニューロンやシナプスの基礎、中枢神経系（脊髄、脳幹、間脳、大脳、小脳）の機能の特徴を理解し、説明できる。
3. 自律神経系の機能の特徴について理解し、説明できる。
4. 血液の機能の特徴について理解し、説明できる。
5. 心臓、血管（動脈、静脈）の機能の特徴について理解し、説明できる。

■ 授業方法・教材

教科書：「生理学」（社）東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社

1. 第1章生理学の基礎、第11章神経、第12章内臓の自律神経性調節、第2章血液、第3章循環、第4章呼吸、第5章消化と吸収について講義する。
2. 教科書の他章の関連する事項についても簡潔に説明し、理解を深める。
3. 基本的知識を正確に理解するよう、板書その他プリント、スライドを使用する。

■ 学習方法

1. 生理学では正常状態における人体の働きの仕組みについて学ぶが、この働きは、各器官の構造の特徴とも密接に関連し合っている。従って解剖学も理解すること。
2. 生理学の知識は2年生、3年生で学習する科目や鍼灸の治効理論の基礎となっている学問であることを忘れないこと。
3. 図表が説明しようとしていることを理解し、説明できるようにすること。

■ 成績評価

- ・ 中間試験（40%）、期末試験（60%）で評価する。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			オリエンテーション、第1章生理学の基礎、細胞
2			第1章 生理学の基礎 物質代謝、物質の移動
3			第11章 神経の分類
4			第11章 ニューロンとグリア、有髄神経線維と無髄神経線維、神経の変性と再生
5			第11章 静止電位
6			第11章 活動電位
7			第11章 興奮の伝導
8			第11章 神経線維の分類
9			第11章 興奮の伝達、興奮性シナプス後電位と抑制性シナプス後電位
10			第11章 シナプスの可塑性、神経伝達物質
11			第11章 末梢神経系、中枢神経系の概要、脊髄の機能、脳幹の機能
12			第11章 末梢神経系、中枢神経系の概要、脊髄の機能、脳幹の機能
13			第11章 末梢神経系、中枢神経系の概要、脊髄の機能、脳幹の機能
14			第11章 末梢神経系、中枢神経系の概要、脊髄の機能、脳幹の機能
15			第11章 末梢神経系、中枢神経系の概要、脊髄の機能、脳幹の機能
16			第11章 間脳の機能、小脳の機能、大脳（皮質、髄質）の機能、記憶、脳波
17			第11章 間脳の機能、小脳の機能、大脳（皮質、髄質）の機能、記憶、脳波
18			第11章 間脳の機能、小脳の機能、大脳（皮質、髄質）の機能、記憶、脳波
19			第11章 間脳の機能、小脳の機能、大脳（皮質、髄質）の機能、記憶、脳波
20			第12章 自律神経系の基礎 交感神経系の特徴
21			第12章 自律神経系の基礎 副交感神経系の特徴
22			第12章 自律神経系の中枢と自律神経反射
23			第12章 自律神経系の神経伝達物質と受容体
24			第12章 自律神経系の神経伝達物質と受容体
25			第2章 血液全般の働き、血漿蛋白の産生と働き、赤血球の機能と寿命

26			第2章 血液全般の働き、血漿蛋白の産生と働き、赤血球の機能と寿命
27			第2章 血液全般の働き、血漿蛋白の産生と働き、赤血球の機能と寿命
28			第2章 赤血球のその後…腸間循環とビリルビン、白血球の機能と免疫
29			第2章(第16章) 生体の防御機能
30			第2章(第16章) 生体の防御機能
31			第2章(第16章) 生体の防御機能
32			第2章(第16章) リンパ球とサイトカイン
33			第2章(第16章) リンパ球とサイトカイン
34			第3章 心臓及び血管の構造、心筋の作用、自動能及び自律神経支配
35			第3章 心臓、血管の自律神経支配
36			第3章 心周期と心音、血圧の意味
37			第3章 心周期と心音、血圧の意味
38			第3章 心周期と心音、血圧の意味

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	生理学Ⅱ		担当教員	二本松 明	
開講時期	1年次後期		総時限数	38時限	授業形態	講義	単位数 5単位

■ 科目内容

生理学は正常状態での生体の機能について学ぶ学問である。生理学Ⅱでは、多様な人体の機能のうち、呼吸器、消化器、体温調節、腎臓や泌尿器系の構造と機能、内分泌系（ホルモン）の分泌と作用、生殖機能と老化、神経について主に運動神経、感覚神経の機能、筋の運動について学習する。

■ 到達目標

1. 肺、気管支など呼吸器の機能の特徴について理解し、説明できる。
2. 消化器の機能の特徴について理解し、説明できる。
3. 栄養素の働きと代謝について理解し、説明できる。
4. 体温調節の仕組みについて理解し、説明できる。
5. 腎臓の構造と機能、泌尿器系の構造と尿生成の仕組みについて理解し、説明できる。
6. ホルモンについて、分泌器官とその作用を理解し、説明できる。
7. 正常な生殖機能と老化について理解し、説明できる。
8. 骨格筋、平滑筋、心筋の違いについて理解し、説明できる。
9. 脊髄、脳幹、小脳、大脳レベルでの運動調節について理解し、説明できる。
10. 主要な感覚受容器の構造、大脳までの上行性伝導路について理解し、説明できる。

■ 授業方法・教材

教科書：「生理学」（社）東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社

1. 第7章体温、第8章排泄、第9章内分泌、第10章生殖と老化、第13章筋、第14章運動、第15章感覚について講義する。
2. 教科書の他章の関連する事項についても簡潔に説明し、理解を深める。
3. 基本的知識を正確に理解するよう、板書その他プリント、スライドを使用する。

■ 学習方法

1. 生理学では正常状態における人体の働きの仕組みについて学ぶが、この働きは、各器官の構造の特徴とも密接に関連し合っている。従って解剖学も理解すること。
2. 生理学の知識は2年生、3年生で学習する科目や鍼灸の治効理論の基礎となっている学問であることを忘れないこと。
3. 図表が説明しようとしていることを理解し、説明できるようにすること。

■ 成績評価

- ・ 中間試験（40%）、期末試験（60%）で評価する。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			第3章 血圧に影響する因子、血圧異常
2			第3章 血圧に関わる反射 圧受容器反射、心肺部圧受容器反射
3			第3章 血圧に関わる反射 圧受容器反射、心肺部圧受容器反射
4			第4章 呼吸器系の構造、呼吸運動のしくみ
5			第4章 呼吸器系の構造、呼吸運動のしくみ
6			第4章 肺の換気能、ガス交換のしくみ、呼吸運動の神経性調節
7			第4章 肺の換気能、ガス交換のしくみ、呼吸運動の神経性調節
8			第4章 呼吸の神経性調節と情動
9			第4章 呼吸の神経性調節と情動
10			第5章 消化器系全般の構造、口腔、唾液腺、嚥下
11			第5章 消化器系全般の構造、口腔、唾液腺、嚥下
12			第5章 嚥下、食道、胃運動の局所性、神経性、ホルモン性調節
13			第5章 嚥下、食道、胃運動の局所性、神経性、ホルモン性調節
14			第5章 小腸の運動、消化酵素
15			第5章 消化管ホルモン、大腸の機能
16			第5章 膵臓、肝臓の構造と機能、膵液分泌と消化管ホルモン
17			第5章 膵臓、肝臓の構造と機能、膵液分泌と消化管ホルモン
18			第5章 肝臓の機能と胆汁の生成、分泌
19			第5章 肝臓の機能と胆汁の生成、分泌
20			第5章 排便反射
21			第6章 3大栄養素の働きと代謝
22			第8章 泌尿器系の構造、腎臓の構造と機能
23			第8章 泌尿器系の構造、腎臓の構造と機能
24			第8章 腎臓の水の再吸収の仕組み
25			第8章 腎臓の水の再吸収の仕組み
26			第8章 腎臓と体液量調節、血圧調節

27			第8章 腎臓と体液量調節、血圧調節
28			第8章 排尿反射と神経系
29			第8章 排尿反射と神経系
30			第9章 内分泌系 内分泌と外分泌の違い、視床下部
31			第9章 下垂体ホルモンの作用
32			第9章 甲状腺ホルモンの作用
33			第9章 副甲状腺ホルモンの作用、血漿カルシウムイオン濃度の調節
34			第9章 膵臓のホルモンと血糖値の調節
35			第9章 副腎髄質ホルモンの分泌調節と作用
36			第9章 副腎皮質ホルモンの分泌調節と作用
37			第9章 主要な内分泌疾患、性ホルモン
38			第9章、第10章 性周期、生殖機能

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	医療概論		担当教員	工藤 匡	
開講時期	1年次通年		総時限数	16時限	授業形態	講義	単位数 2単位

■ 科目内容

施術者、医療関係者として知っておかなければならない現行の医療システムと倫理、その他の問題点(インフォームドコンセント、QOL、バイオエシックス等の概念)について学習する。

■ 到達目標

- ・医療の歴史についての概要を説明できる。
- ・現代の医療制度についての概要を説明できる。
- ・施術者、医療従事者として知っておかなければならない現行の医療システムと倫理、その他の問題点(インフォームドコンセント、QOL、バイオエシックス等の概念)について自分の考えを説明できる。

■ 授業方法・教材

- ・教員が作成した資料、プリント

■ 学習方法

- ・教員が配布した資料をもとにして授業を進めていく

■ 成績評価

- ・期末試験(100%)

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			現代医学の課題（西洋近代医学・東洋医学）
2			医の倫理
3			健康の考え方
4			病気の考え方
5			多様な治療法
6			死の問題
7			脳死・臓器移植
8			治療法の決定
9			プライマリヘルスケア
10			国民医療費・公的医療保険
11			介護保険
12			痛みの社会的影響
13			医の歴史①
14			医の歴史②
15			医の歴史③
16			全体のまとめ

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	はり・きゅう理論		担当教員	二本松 明	
開講時期	1年次後期		総時限数	16時限	授業形態	講義	単位数 2単位

■ 科目内容

東洋医学には長い歴史がある一方で、科学性が乏しいと言われてきたが、近年は鍼灸の作用機序が明らかになってきて、科学的な根拠に基づく医療が提供できるようになりつつある。患者さんにもインフォームドコンセントが必須な時代であり、鍼や灸の効果はもちろん、治療内容や、リスク管理など、患者さんが納得して安心・安全な鍼灸治療を提供することが求められる。本講を通じて、鍼灸の基礎的なメカニズムや理論、リスクについて学んでいく。

■ 到達目標

- ・ 鍼灸の定義や特徴を説明できるようにする
- ・ 鍼灸治療に用いる用具やその方式や術式について説明することができる
- ・ 鍼灸の適応・禁忌事項を説明できるようにする
- ・ 鍼灸のリスク管理、および対応・対策について説明できるようにする

■ 授業方法・教材

- ・ 「はり・きゅう理論」：(社) 東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社
- ・ サブテキスト「生理学」：(社) 東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社
- ・ 教員が作成した資料、プリント

■ 学習方法

- ・ 教科書と教員が配布した資料をもとにして授業を進めていく
- ・ 解剖学、生理学、はりきゅう実技の知識と関連が高いため、復習しておくこと

■ 成績評価

- ・ 期末試験 (100%)

担当職員 二本松 明

資 格 はり師・きゅう師

所 属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経 歴 新潟看護医療専門学校 東洋医療センター鍼灸治療院

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			はりきゅうとは何か、鍼灸治療の変遷
2			鍼の基礎知識
3			灸の基礎知識
4			鍼術の種類、古代九鍼
5			十七手技①
6			十七手技②
7			十七手技③
8			特殊鍼法、灸術の種類
9			鍼灸治療の適応と禁忌
10			鍼灸治療の適応と禁忌
11			鍼灸の過誤と副作用
12			鍼灸の過誤と副作用
13			鍼灸の過誤と副作用
14			鍼灸刺激で興奮する感覚受容器
15			鍼灸刺激で興奮する感覚受容器と神経線維
16			まとめ

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	東洋医学概論		担当教員	阿部 吉則 八重樫 稔	
開講時期	1年次通年		総時限数	60時限	授業形態	講義	単位数 8単位

■ 科目内容

東洋医学は中国古代に源を発し、日本をはじめ東アジア諸国に広がり、各国それぞれ独自の発展を遂げてきた。東洋医学の考え方は、人と自然・環境などとの調和と統一性を重視するもので、身体のバランスを整えることで症状の改善を目指すものである。

鍼灸の技術は、東洋医学における治療手段のひとつとして育まれてきた。本講では、東洋医学の成り立ちや、東洋医学が基盤とする基本的なものの考え方を学ぶ。そのうえで、人体観、疾病観、治療論の各項目について、その概要を理解する。

■ 到達目標

- ・ 東洋医学の特徴や現代における有用性を説明することができる。
- ・ 身の周りの人の病態を東洋医学的に説明することができる。
- ・ 症状、所見から東洋医学的な証立てができる。

■ 授業方法・教材

- ・ 教科書：「新版東洋医学概論」（東洋療法学校協会編、医道の日本社）。
- ・ 参考書：東洋医学に関して一般向けに書かれた書籍が、数多く出版されている。気に入ったものを選んで、目を通してみるとよい。本校図書室にも多くの書籍がある。

■ 学習方法

- ・ 講義内容を日常生活に応用して考えてみること。
- ・ 東洋医学的なものの見方、考え方に慣れること。

■ 成績評価

- ・ 中間試験、期末試験、小テスト、提出物、授業への貢献、発言などで評価する。
- ・ 出席、遅刻、授業態度により、加減することがある。

■ 連絡事項

- ・ 教科書、サブノートは毎回持参すること。
- ・ 配布資料を適宜配布する。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			東洋医学の歴史
2			東洋医学の歴史
3			日本における東洋医学の歴史
4			日本鍼灸の特徴
5			東洋医学の思想 陰陽論・五行論
6			東洋医学の思想・考え
7			気の生理と症状
8			血の生理と症状
9			津液の生理と症状
10			精の生理と症状 生理事質の相互関係
11			神の生理と症状
12			陰陽の生理と症状
13			気血津液精神のまとめ
14			気血津液精神のまとめ
15			蔵象学説総論
16			肝の生理
17			肝の生理・病理
18			肝の病理
19			心の生理
20			心の病理
21			脾・胃の生理
22			脾・胃の病理
23			肺の生理
24			肺の病理
25			腎の生理
26			腎の病理
27			六腑の生理と病理
28			臓腑の相互関係
29			蔵象学説まとめ
30			蔵象学説まとめ

31		病因 六淫
32		病因 内傷病因
33		弁証論治 概要
34		六経弁証、衛気営血弁証、三焦弁証
35		十二経脈弁証
36		十二経脈弁証
37		奇経八脈弁証
38		四診（舌診）
39		四診（舌診）
40		四診（聞診）
41		四診（問診）
42		四診（問診）
43		四診（脈診）
44		四診（腹診）
45		難経六十九難の補瀉
46		弁証論治（八綱弁証）
47		弁証論治（八綱弁証）
48		弁証論治 弁証トレーニング
49		弁証論治 弁証トレーニング
50		弁証論治 弁証トレーニング
51		弁証論治 弁証トレーニング
52		弁証論治 弁証トレーニング
53		脈診・腹診（実技）
54		脈診・腹診（実技）
55		脈診・腹診（実技）
56		脈診・腹診（実技）
57		鍼灸の補瀉
58		古代刺法 五刺・九刺・十二刺
59		全日本鍼灸学会北海道大会 会頭講演
60		全日本鍼灸学会北海道大会 会頭講演

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	経絡経穴概論		担当教員	志田 貴広	
開講時期	1年次通年		総時限数	60時限	授業形態	講義	単位数 8単位

■ 科目内容

1年次の経絡経穴概論では経絡経穴の知識（各経絡の流注や所属する経穴名、穴名の由来、経穴を取穴するために必要な解剖学的知識など）や実際の経穴取穴の技術を学修する。

■ 到達目標

1. 経絡と経穴に関する基本的な知識を身につける。
2. 骨度法や同身寸法を理解し、履修した経穴を取穴できるようになる。

■ 授業方法・教材

教科書：「新版 経絡経穴概論 第2版」

1. 教科書やプリントを用い、座学と取穴の実技を並行して行う。
2. 知識の定着を促すため、定期的に小テストを行う。

■ 学習方法

1年間で361穴の経穴を学び、その概要を覚える必要があるため、授業前後の予習や復習を行うことが望ましい。また、座学と並行して行われる取穴の実技には積極的に参加し、経験を積むようにすること。

■ 評価基準

中間試験と期末試験で評価する。

その他、授業内で行う小テストの結果も加味する。

担当職員 志田 貴広

資格 はり師・きゅう師

所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経歴 みらい鍼灸院

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			オリエンテーション、第1章 経絡経穴の基礎
2			第1章 経絡経穴の基礎
3			第1章 経絡経穴の基礎
4			第1章 経絡経穴の基礎
5			第1章 経絡経穴の基礎
6			第1章 経絡経穴の基礎
7			第2章 経脈・経穴 督脈
8			第2章 経脈・経穴 督脈
9			第2章 経脈・経穴 督脈
10			第2章 経脈・経穴 督脈
11			第2章 経脈・経穴 任脈
12			第2章 経脈・経穴 任脈
13			第2章 経脈・経穴 任脈
14			第2章 経脈・経穴 任脈
15			第2章 経脈・経穴 手の太陰肺経
16			第2章 経脈・経穴 手の太陰肺経
17			第2章 経脈・経穴 手の陽明大腸経
18			第2章 経脈・経穴 手の陽明大腸経
19			第2章 経脈・経穴 手の陽明大腸経
20			第2章 経脈・経穴 手の陽明大腸経
21			第2章 経脈・経穴 足の陽明胃経
22			第2章 経脈・経穴 足の陽明胃経
23			第2章 経脈・経穴 手の陽明胃経
24			第2章 経脈・経穴 足の陽明胃経
25			第2章 経脈・経穴 足の陽明胃経
26			第2章 経脈・経穴 足の陽明胃経
27			第2章 経脈・経穴 足の太陰脾経
28			第2章 経脈・経穴 足の太陰脾経
29			第2章 経脈・経穴 足の太陰脾経

30			第2章 経脈・経穴 足の太陰脾経
31			第2章 経脈・経穴 手の少陰心経
32			第2章 経脈・経穴 手の太陽小腸経
33			第2章 経脈・経穴 手の太陽小腸経
34			第2章 経脈・経穴 手の太陽小腸経
35			第2章 経脈・経穴 手の太陽小腸経
36			第2章 経脈・経穴 足の太陽膀胱経
37			第2章 経脈・経穴 足の太陽膀胱経
38			第2章 経脈・経穴 足の太陽膀胱経
39			第2章 経脈・経穴 足の太陽膀胱経
40			第2章 経脈・経穴 足の太陽膀胱経
41			第2章 経脈・経穴 足の太陽膀胱経
42			第2章 経脈・経穴 足の少陰腎経
43			第2章 経脈・経穴 足の少陰腎経
44			第2章 経脈・経穴 足の少陰腎経
45			第2章 経脈・経穴 足の少陰腎経
46			第2章 経脈・経穴 手の厥陰心包経
47			第2章 経脈・経穴 手の少陽三焦経
48			第2章 経脈・経穴 手の少陽三焦経
49			第2章 経脈・経穴 手の少陽三焦経
50			第2章 経脈・経穴 手の少陽三焦経
51			第2章 経脈・経穴 足の少陽胆経
52			第2章 経脈・経穴 足の少陽胆経
53			第2章 経脈・経穴 足の少陽胆経
54			第2章 経脈・経穴 足の少陽胆経
55			第2章 経脈・経穴 足の少陽胆経
56			第2章 経脈・経穴 足の少陽胆経
57			第2章 経脈・経穴 足の厥陰肝経
58			第2章 経脈・経穴 足の厥陰肝経
59			第2章 経脈・経穴 足の厥陰肝経
60			第2章 経脈・経穴 足の厥陰肝経

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	はり・きゅう実技		担当教員	大湊 隆次郎	
開講時期	1年次通年		総時限数	90時限	授業形態	実技	単位数 6単位

■ 科目内容

本講義では、はり師・きゅう師に必要な基本実技を学び、正確かつ安全に身体へ刺鍼・施灸を行うことが出来るように反復した基礎練習を行う。また、施術用具とその取扱い、身体各部における治療点としての経穴の正しい取穴、刺鍼法、施灸法を修得する。

■ 到達目標

- ・消毒を含めた刺鍼の手順を実践できる。
- ・鍼の刺鍼技術と正しい刺鍼方法を修得できる。
- ・散艾から一定の大きさの艾炷を作成できる。
- ・身体各部の治療点（経穴）を正しく取穴できる。
- ・鍼灸施術の治療点と管理を取り扱う方法を修得する。

■ 授業方法・教材

- ・教材：「はりきゅう実技（基礎編）」東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
「はりきゅう理論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
- ・その他の教材として鍼（銀製）、もぐさ、線香、刺鍼練習器（鍼枕）、施灸練習器を使用する。

■ 学習方法

はりきゅう実技は鍼灸の根幹をなすものであることを理解する。はり・きゅうの実技は実際に体験しなければ修得できるものではない。そのため、授業中に積極的に実習を行うこと。また本講義は、はり・きゅうを実際に使用する実習科目であるため、実習における身なりを整えること。特に白衣の着用、頭髪、爪などに注意すること。講義開始時間までに講義に必要な準備を済ませること。

■ 成績評価

- ・実技期末試験で評価する。
- ・出席が80%以下の者は評価をしない。
- ・また授業中に積極的に実習を行っている者については加点し、授業態度の悪い者については減点する場合がある。

担当職員 大湊 隆次郎

資 格 はり師・きゅう師 あん摩マッサージ指圧師、柔道整復師

所 属 大湊厚生療院

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			鍼灸施術の意義と役割 施術上の注意 実習室の管理と清潔保持
2			使用用具の管理 取扱いの実際 滅菌等
3			鍼の基本実技 刺鍼方法 管鍼法を中心として
4			灸療法の実際 艾・線香について 灸の種類
5			鍼の基本練習 挿管法(双手・隻手)
6			灸の基本練習 艾炷の作成 円錐形の作り方と摘み方 大きさの加減の仕方
7			鍼の基本練習 双手挿管法
8			灸の基本練習 艾炷の作成 円錐形の作り方と摘み方 大きさの加減の仕方
9			鍼の基本練習 双手挿管法
10			灸の基本練習 艾炷の作成 円錐形の作り方と摘み方 大きさの加減の仕方
11			鍼の基本練習 双手挿管法 揉法(前と後)
12			灸の基本練習 艾炷の作成 円錐形の作り方と摘み方 大きさの加減 米粒大
13			鍼の基本練習 双手挿管法 揉法 押手
14			灸の基本練習 艾炷の作成 米粒大
15			鍼の基本練習 双手挿管法 揉法 押手
16			灸の基本練習 艾炷の作成 米粒大
17			鍼の基本練習 双手挿管法 揉法 押手 弾入
18			灸の基本練習 艾炷の作成 米粒大
19			鍼の基本練習 双手挿管法 揉法 押手 弾入
20			灸の基本練習 艾炷の作成 米粒大
21			鍼の基本練習 双手挿管法 揉法 押手 弾入
22			灸の基本練習 艾炷の作成 半米粒大
23			鍼の基本練習 双手挿管法 揉法 押手 弾入 刺入(送り込み)
24			灸の基本練習 艾炷の作成 米粒大 半米粒大
25			鍼の基本練習 双手挿管法 揉法 押手 弾入 刺入(送り込み)
26			灸の基本練習 艾炷の作成 米粒大 半米粒大
27			鍼の基本練習 双手挿管法 揉法 押手 弾入 刺入(送り込み)
28			灸の基本練習 艾炷の作成 米粒大 半米粒大 点火練習
29			鍼の基本練習 双手挿管法 揉法 押手 弾入 刺入(送り込み 旋燃)

30			灸の基本練習 艾炷の作成 米粒大 半米粒大 点火練習
31			鍼の基本練習 双手挿管法 揉法 押手 弾入 刺入(送り込み 旋撚)
32			灸の基本練習 艾炷の作成 米粒大 半米粒大 点火練習
33			鍼の基本練習 双手挿管法 揉法 押手 弾入 刺入(送り込み 旋撚) 十七手技
34			灸の基本練習 艾炷の作成 米粒大 半米粒大 点火練習
35			鍼の基本練習 自身の下肢への刺鍼
36			灸の基本練習 自身の前腕部への施灸
37			鍼の基本練習 自身の下肢への刺鍼
38			灸の基本練習 自身の前腕部への施灸
39			鍼の基本練習 自身の下肢への刺鍼
40			灸の基本練習 自身の前腕部への施灸
41			身体各部への刺鍼および施灸 上肢 手関節
42			同上
43			身体各部への刺鍼および施灸 上肢 肘関節
44			同上
45			身体各部への刺鍼および施灸 上肢 前腕部
46			同上
47			身体各部への刺鍼および施灸 上肢 手指部
48			同上
49			身体各部への刺鍼および施灸 肩周囲部
50			同上
51			身体各部への刺鍼および施灸 体幹前面 胸部
52			同上
53			身体各部への刺鍼および施灸 体幹前面 上腹部
54			同上
55			身体各部への刺鍼および施灸 体幹前面 中下腹部
56			同上
57			身体各部への刺鍼および施灸 体幹後面 頸部
58			同上
59			身体各部への刺鍼および施灸 体幹後面 中背部
60			同上

61		身体各部への刺鍼および施灸 体幹後面 上背部
62		同上
63		身体各部への刺鍼および施灸 体幹後面 腰部 臀部
64		同上
65		身体各部への刺鍼および施灸 下肢 足指部
66		同上
67		身体各部への刺鍼および施灸 下肢 足関節周囲部
68		同上
69		身体各部への刺鍼および施灸 下肢 膝関節周囲部
70		同上
71		身体各部への刺鍼および施灸 下肢 下腿部
72		同上
73		身体各部への刺鍼および施灸 下腿後面 膀胱経
74		同上
75		身体各部への刺鍼および施灸 頭部
76		同上
77		身体各部への刺鍼および施灸 顔面部
78		同上
79		主な反応点の探索
80		探索の方法
81		解剖学的特殊部位の刺鍼
82		同上
83		応用実習
84		応用実習
85		予備日（履修不足を補う）
86		予備日（履修不足を補う）
87		予備日（履修不足を補う）
88		予備日（履修不足を補う）
89		予備日（履修不足を補う）
90		予備日（履修不足を補う）

61			眼疲労に対するの総括
62			呼吸器疾患
63			呼吸器疾患
64			呼吸器疾患
65			呼吸器疾患に対するの総括
66			腹部取穴
67			腹部取穴
68			腹部取穴総括
69			婦人科
70			婦人科疾患に対するの総括
71			排尿障害
72			排尿障害に対するの総括
73			特別講義 I
74			特別講義 II
75			特別講義 III
76			特別講義 IV